

札幌校 言語社会教育専攻英語教育分野 4年目 堤貴亮

留学先 イギリス SOAS ELAS コース 2018年4月～12月

イギリスでの留学期間を終えて

私は今回、ロンドンにある SOAS University の ELAS コースに 2 ターム参加していました。半年間や 1 年間相場である交換留学において 9 か月間という中途半端だという気がしていたのですが、自分の中では短すぎたと感じることもなく、本当に多くの貴重な経験をできた期間であったと感じています。この留学体験記では、今回の留学を経験して有意義な時間を過ごせたと感じた主な要因を三点紹介したいと思います。

一点目は、勿論勉強に関するものです。留学をしたいという学生のほぼ全員が勉強をしたために志望すると思いますので、ELAS での授業について紹介したいと思います。ELAS コースは大学内にある語学コースです。日本人は交換留学生が多いですが、他の国からの留学生のほとんどは母国の大学を卒業してイギリスの大学院に進むための勉強をしています。基本的には Literacy というリーディング、ライティングに特化した授業で参考文献の読み方やアカデミックエッセイの書き方を学び、Oracy というスピーキング、リスニングに特化した授業で講義を受ける際のメモの取り方やプレゼンテーションの進め方を学びます。その他にアカデミックモジュールとして Humanities, Social Science, Global Business のいずれかを選び、オプションモジュールとしてアートやメディアについて学ぶこともできます。私は Humanities を選択していたのですが、Humanities の授業は 1 週間のうちに Lecture, Review, Discussion, Case Study, Seminar の 5 つの授業が入り、これを 10 週間繰り返します。Lecture ではその名の通り講義を受けてメモを取りながら聞くという時間になります。それを Review の時間に、出される問題について 4 人グループで話し合いながら確認します。Discussion では何も議題を与えられず学生たちが講義に沿ったフリーディスカッションを行い、Case Study では事例に関しての動画を見ます。最後の Seminar の時間には 2 グループに分かれて出された議題について賛成派、反対派に分かれて意見を出し合う、という 5 時間のサイクルになっています。この Humanities の時間が一番勉強にもなり、直前に憂鬱にもなり、参加していて楽しい時間でもありました。まず、憂鬱だった理由としては圧倒的



Farewell Partyの様子

知識不足が挙げられます。誰も聞いたことがある話だとは思いますが、日本人は自分の国のことを分かっていない人が多いと言われますが、自分はその典型でした。特に、多国籍なクラスなのでディスカッションやセミナーの際には「あなたの国ではどのような制度が取られているの。」といった質問が頻繁に出るのですが、満足に答えられたためしがなく、足りない知識を出しながら憶測で言う結果になることが多くありました。しかし、様々な国籍の学生から母国の話を聞ける機会でもあったので楽しさを感じる時間でもありました。また、Seminarでは極論である議題に関して強制的に賛成か反対かを決められ、意見を出さなければいけなかったのととても苦しい思いもしました。「女性のみが世界を統治すると、世界はより平和になる」という議題に賛成意見を出せと言われた際にはグループ全員で頭を抱えるしかありませんでした。しかし、そういった中でも、詭弁すれすれの意見であっても絞り出そうとする能力は培えたと感じています。

二点目は様々な人との出会いです。留学をすると現地の人たちは勿論、他国からの留学生や他の大学からの日本人とも多く触れ合うことができます。自分は将来について考えており、様々な文化や職業の人たちに話を聞きたいと考えていた時期だったのでこの点がとてもいい勉強になりました。同じクラスにいる友達でも、たとえ日本人であっても自分の将来のために色々な人と積極的に話しました。とにかく英語を学びたいと考えて留学する人は日本人と話すことを避けたいと考えると思いますし、それも正しいと思います。しかし、自分にはそういった目的も持った留学でもあったのでそこを気にせずコミュニケーションをとっていました。それぞれの人が生まれた国について、勉強しているものについて、働いてきた職業について話を聞けることがとてもいい勉強になりました。

三点目は観光についてお話ししたいと思います。これはイギリスに留学したからこそ感じることできた部分も多いと思いますが、自分は勉強の他に観光も全力で楽しみました。週末にも入れられる予定は入れるようにして、課題が多い週は勉強に充てながらというように、勉強の害にならない程度に色々な場へ赴きました。ただ遊びたかったように聞こえるかもしれませんが、最初はその通りでした。しかし、途中から観光で学べることも多いことに気づき、更に多くの場所へ行くようになりました。私が行った観光は主に旅行、食事、ミュージカル鑑賞です。ミュージカルは本場と言われるウエストエンドがSOASから歩いて10分ほどの場所にあり、夕方からの講演が多いので授業が終わった後に鑑賞することができます。レ・ミゼラブル、オペラ座の怪人など世界的に有名なミュージカルを



観光で訪れたサグラダファミリア

本場で見る事ができたのは本当に貴重な経験になりました。旅行ではロンドン郊外やヨーロッパを周り、10か国ほど観光することができました。自分は観光の際には事前にどの観光地をどのようなコースで回るかなどを細かく調べる性格なので、その地域ごとの地理や歴史的背景、文化なども学んだ後に現地では体感することを繰り返し、本当に様々な国についての知識を得ることができました。一口に観光と言っても遊ぶことだけが目的ということもないので是非力を入れて頂きたいと思います。

以上三点によって私は今回の留学がとても意義を持ったものであったと感じました。これから留学をしようと考えている皆さんには、自分が何のために留学をするのか考えて頂きたいと思います。ただ単に英語ができて授業に関する知識がなければ発言することが難しくなります。自分には英語力もそういった知識も足りていませんでしたが、それらを底上げし、これからも勉強を続けていきたいという動機づけになった期間であったと思います。何を勉強したいのか、何を感ずたくてその国に行くのかを考え、行った後でさえ常に考えながら留学を楽しんでほしいと思います。



ウィンブルドンにて観戦した錦織選手



Royal Wedding